

「協同組合間協同で取り組む平和運動—協同組合ネットいばらきを事例に」

協同組合ネットいばらき代表・茨城県生協連会長 佐藤洋一

はじめに

協同組合が連携すると「新しい価値（役割・貢献）」が生まれる。この「新しい」ものとは何か。それぞれの強みとは。地域に根差すが共通。—2016年7月茨城県農村研修館で行われた「協同組合学習会」でのグループディスカッションのテーマです。農業協同組合、消費生活協同組合、森林組合そして漁業協同組合などから若手職員が参加し、フィールドワーク含め全3回にわたり行われる「協同組合ネットいばらき」主催の学習会です。初めての試みで、10月に開催される「JA自己改革実践大会」の場でも、「中間発表」が行われます。

「協同組合ネットいばらき」は、2012年の国際協同組合年の取り組みを受けて、翌2013年に設立されました。その目的は「協同組合の価値や協同組合が現代社会で果たしている役割等について広く県民に認知されるよう取り組みを行うとともに、異種の協同組合が連携することにより、生産者と消費者が手を携えて地域を守り、もって協同組合運動を促進させる取り組みを行う。」としています。

「協同組合間協同で取り組む平和運動」として「金次郎キャラバン—2012ピースアクション夏」「語り継ぐ戦争—茂木貞夫物語・高橋久子物語」「映画サクラ花—桜花最期の特攻」の取り組みについて取り上げます。

「金次郎キャラバンと2012ピースアクション夏」

「5月15日に水戸市内をスタートし、県内230キロメートルを行進し、国際協同組合デーである本日、ここに無事終了することができました。金次郎キャラバンでは、協同組合がよりよい社会作りに貢献していることは勿論のこと、昨年の東日本大震災からの復旧・復興への取り組み、さらには平和への願いを県民の皆様へ、広くお伝えすることができたことは大変うれしくおもいます。今後も協同組合活動を通じて平和への取り組みを、精力的に行っていく所存です。戦争のない平和な世の中が続きますよう、皆様とともに活動することお誓いして、ごあいさつとさせていただきます。」

茨城県民文化センターで開催された、「平和の集い—2012ピースアクションinいばらき」での、国際協同組合年茨城県実行委員会・加倉井豊邦会長からのご挨拶です。加倉井会長は、「JA中央会」の会長はじめ「JA厚



生連、JA共済連、JA信連」の会長を担われています。

2012年2月「協同組合はよりよい社会を築きます。」国連の定める国際協同組合年をうけて、「国際協同組合年茨城県実行委員会」が「茨城県農業協同組合中央会・茨城県生活協同組合連合会・茨城県沿海地区漁業協同組合連合会・茨城県森林組合連合会・茨城県酪農業協同組合連合会・茨城県畜産農業協同組合連合会・茨城県消費者団体連絡会・NHK水戸放送局・茨城放送・茨城新聞社」をメンバーとしてつくられました。

この「国際協同組合年茨城県実行委員会」の事業は、4つありました。ひとつは「福島子ども保養プロジェクト」を柱とする東日本大震災の復旧・復興支援です。二つ目は「協同組合シンポジウム・収穫祭」を「メデアメッセ」の皆さんのお力もお借りして、開催することです。三つ目は、茨城大学におけるボランティア講座「協同組合論」の開講です。四つ目ですが、冒頭の加倉井会長の挨拶にもありましたが「金次郎キャラバン」の実施です。

なお、茨城大学でのボランティア講座「協同組合論」は、JA直売所の視察や常陸牛などの試食もあり好評です。この講座を受けた学生が協同組合に就職してきています。指導教官の井上拓也人文学部教授は、茨城大学生協の役員を経験されています。2015年から新たに「大学生と消費生活」という講座も始まりました。

5月15日水戸市のJA会館を出発した「金次郎キャラバン」。7月7日水戸市の県民文化センターで終了しました。土曜日・日曜日を使って、歩いての16日間「国際協同組合年」「報徳不忘」「二宮金次郎」などのノボリ旗とチョンマゲかつらをかぶり、県内各地の

JA本店や生協のお店そして市役所などをまわりました。なんで「金次郎キャラバン」なのかというと、二宮金次郎は、茨城県青木村（現在の桜川市）で「青木の堰」工事を行ったことがあり、大原幽学と並び称される「協同組合思想の源流」とされる地元ゆかりの人物です。「創始者の伝統を受け継ぎ、協同組合にかかわる人たちの団結を強化する。」取り組みとして行われました。通して参加いた



だいた、地元コメディアン「アントキの猪木」の「いち・に・さん・ダー」が、なお一層の団結を強めました。なお、出発式の5月15日は、沖縄における平和行進の出発の日にあたります。

桑山紀彦氏の「地球のステージ」、水戸市の「平和大使」小中学生による「広島平和記念式典参加作文」の発表そして茂木貞夫氏の「被爆体験」報告、300名が集まった「平和

の集い・2012ピースアクションinいばらき」。主催者は茨城県生協連合会。後援者は茨城県、県教育委員会、県被爆者団体協議会、報道各社。ここまでは昨年までと同じ顔ぶれですが、この年、初めて「茨城県農業協同組合中央会」の名前が入りました。「命と平和の大切さを考え、願うための催し。子供たちをはじめ、誰でもが気軽に参加できる平和活動として、10年以上前から実施されている。本年度は、震災復興と平和の集いとして開催。」JA中央会の作成した「2012ピースアクションinいばらきとは」へのコメントです。そして「金次郎キャラバン」の「完歩」の場として、この「2012ピースアクション」が選ばれました。

「語り継ぐ戦争—茂木貞夫物語、高橋久子物語。」

「広島市立中島小学校6年生。12歳。下級生を寺子屋(仮学校)に誘導した後、市内を流れる本川沿いに架かる住吉橋の手前で、途中で出会った友人二人と被爆。爆心地からは1.5キロメートル。友人は行方不明。今でもその友人を思い出す。朝鮮人の老婆が泣き叫び、髪を振り乱して救いを求めている。戦争の犠牲になった人たちの分まで生き、当時のことを正確に伝えたい。」茂木貞夫さん。



「12歳の時、爆心地から2キロメートル離れた広島練兵場で被爆。熱線で手足に重い火傷を負い3ヶ月寝たきり状態。ケロイドを見つめ何度も涙を流した。どうせ結婚はできないと思っていたが、25歳で結婚。妊娠するとわが子への被爆の影響に気をもんだ。被爆者の苦しみは傷痕とともに一生ついて回る。今も続くこの痛みは、口を開かなければ伝わらない。」高橋久子さん。

2016年4月。阿見町予科練平和記念館で開かれた「ピースアクション春・平和のおはなし会」。参加された100人の方たちを前に、紙芝居「高橋久子物語」が演じられています。演じているのは、茨城大学教育学部情報コミュニケーション学科の「紙芝居研究会」の学生さんです。「被爆体験を後世に残したい。」それぞれ1年をかけて、お二人のお話をもとに、「茂木貞夫物語」「高橋久子物語」という紙芝居が完成しました。彼らは、水戸市の依頼を受けて、水戸市の空襲を描いた紙芝居も作っていました。紙芝居の製作は、全くのボランティアで引き受けていただきました。「DVD」の作成は、県生協連が行いました。茨城県原爆被爆者協議会、茨城大学紙芝居研究会、JA茨城県中央会、茨城県生協連などが、この紙芝居製作にかかわっています。

「DVD」は、茨城県教育委員会のご協力により、茨城県内全ての公立小学校と中学校に寄贈されました。全国の都道府県の生協連と茨城県内の全ての農業協同組合などにも「協同組合ネットいばらき」をとおして届けられています。

## 映画「サクラ花—桜花最期の特攻」

「きれいごとではない、戦争の現実。それも、どうしようもない現実が、うまく描かれていたように思います。」

「悲愴感。私自身、母方の叔父が特攻で亡くなっており、母から生前何度か話を聞きました。事実を知りたくて観させていただきましたが、真実味があったと思います。全国で、何度も何十回も何百回も、上映されるべき映画だと思います。」

「2016・ピースアクションinいばらき」で、県民文化センター小ホールで上映された映画「サクラ花」への観客からの感想です。

2015年、戦後70年という節目の年に、茨城県を舞台とする映画「サクラ花—桜花最期の特攻」が作られました。

茨城県にも、第二次世界大戦にかかわる多くの戦跡や戦争関連の展示施設がありますが、残念なことに、その多くは、県民に知られてはいません。そこで、この節目の年に、いばらきコープの組合員が8年前にまとめた「戦跡・平和マップ」に、新たに情報を加えた改訂版「いばらき戦跡・平和マップ—戦後70年を迎えて」を作成しました。その中のひとつに「桜花公園—神之池海軍航空隊跡」があります。「桜花」は大型飛行機に搭載され、目標近くで切り離され、体当たりするために開発された「人間ロケット爆弾」です。頭部に爆薬量1, 2トン、胴体後部に推進用の火薬ロケット3本を装備し、ロケット噴射と滑空を繰り返し、目標に体当たりします。現在の鹿島市にあるこの基地で訓練が行われました。

この映画の製作実行委員会の事務局に、「協同組合ネットいばらき」のメンバーである「JA中央会、茨城県生協連」そして「いばらきコープ、パルシステム茨城」が参加しました。映画の「エンディングロール」ですが「戦争の悲劇を二度と繰り返さない。」という願いをこめて、協賛いただいた個人、団体のお名前が延々と続きます。

「涙の乾く時間。」とは観客からの感想です。



なお、2013年「岡倉天心」誕生150周年を記念し、そして2011年東日本大震災からの「復興支援」を目的に作製された映画「天心」と監督や主なスタッフは同じです。この時も「協同組合ネットいばらき」のメンバーが支援しています。

## まとめ

「協同組合間協同で取り組む平和運動」として「金次郎キャラバン—2012ピースアクション夏」「語り継ぐ戦争—茂木貞夫物語、高橋久子物語」「映画サクラ花—桜花最期の特攻」取り上げました。このような広がりがつくられ、続けられていることのすべては、2012年国際協同組合年「協同組合がよりよい社会を築きます。」に始まっています。実行委員会の活動を経て、翌年、2013年「協同組合ネットいばらき」が設立され、ここを柱に動いています。その目的は冒頭で触れましたが、平和の取り組みについては事業計画「被災地支援、平和な社会の実現に向けた取り組み」として毎年掲げられてきました。「わたしたちJA綱領に、平和の2文字はありません。しかし第二項に、安心して暮らせる豊かな地域社会を築くとの表現があります。安心して暮らすためには平和な社会の実現が大前提になければなりません。」JA中央会幹部職員のコメントです。

2005年から、毎年、夏に開催される「平和の集い—ピースアクション in いばらき」。2013年からは、春・夏の開催として県生協連が始めた、この平和について考え、行動する取り組みに、県被爆者団体協議会が参加し、水戸市平和大使が参加し、そして今、「オール協同組合・チーム協同組合」として「協同組合ネットいばらき」が参加しています。

「平和の集い—ピースアクション」に広がりが増し、この取り組みは、これからも続けられます。毎年、たとえ話にある「ゆで蛙」にならないように、「平和」について考え行動する場ができました。

「協同組合ネットいばらき」は、緩やかな組織です。それぞれの協同組合が自立し発展することが最優先で、そのことに、別の協同組合が「何かお役に立てることはないか」と考え行動することが基本です。「平和の取り組み」でも同じです。

なお、茨城県生協連事務所はJA中央会別館にあり、茨城県ユニセフ協会も同じ部屋の一角にあります。茨城県ユニセフ協会の理事・評議員には「協同組合ネットいばらき」のメンバーも参加しています。人と人との関係が協同組合の本質です。「協同組合間の連携で新しい価値を生み出す。」この距離間も大切な要因のひとつだと思いますが・・・。